

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	研究科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホシノアイシュツトクガクエン 学校法人愛知淑徳学園							
フリガナ大学の名称	アイシュツトクガクガクガクイン 愛知淑徳大学大学院（The Graduate School of Aichi Shukutoku）							
大学本部の位置	愛知県長久手市片平二丁目9							
大学の目的	<p>日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に準拠し、学園の建学の精神を基本として、健康で気品のある人格・不撓不屈の精神力、陰徳を心掛ける豊かな情操を涵養するとともに、学術研鑽とその創造的な活用に万全の努力を払い、あまねく真・善・美の真価を調和的に体得することにより、社会と文化の発展に貢献する優れた人材の育成</p>							
新設学部等の目的	<p>健康栄養科学研究科は、高い倫理観を有し、栄養学を構成する人間、食物、環境、さらには栄養学に関連する臨床医学領域などの高度かつ先進的な知識や技術に基づいて、地域が抱える諸問題を多職種連携の中でリーダーシップを発揮しながら解決していく高度専門職業人の養成を設置の目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	健康栄養科学研究科 (Graduate School of Health and Nutritional Sciences)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	健康栄養科学専攻 (Department of Health and Nutritional Sciences)	2	6	—	12	修士（健康栄養科学） (Master of Health and Nutritional Sciences)	令和6年4月 第1年次	愛知県長久手市片平二丁目9
計		6	—	12				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>愛知淑徳大学 大学全体の収容定員増（大学全体7800名→8600名）（令和5年3月学則変更認可申請予定）</p> <p>健康医療科学部 医療貢献学科〔定員増〕（80）（令和6年4月） 理学療法学専攻（40） 臨床検査学専攻（40）</p> <p>健康医療科学部 健康栄養学科（廃止）（△80）</p> <p>※令和6年4月学生募集停止 食健康科学部健康栄養学科（80）（令和5年4月届出予定） 食健康科学部食創造科学科（120）（令和5年4月届出予定）</p>							
	<p>【基礎となる学部】健康医療科学部健康栄養科学科</p> <p>14条特例の実施</p>							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻	14科目	36科目	0科目	50科目	30単位			
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	
	新 設 分	健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	13 (13)
		計	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	- (-)
	既 設	文化創造研究科 文化創造専攻（博士前期課程）	25 (25)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	9 (9)
		文化創造研究科 文化創造専攻（博士後期課程）	23 (23)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
		教育学研究科 発達教育専攻（修士課程）	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	7 (7)
		心理医療科学研究科 心理医療科学専攻（博士前期課程）	36 (36)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	21 (21)
		心理医療科学研究科 心理医療科学専攻（博士後期課程）	29 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)
	グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻（博士前期課程）	21 (21)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	8 (8)	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻（博士後期課程）	17 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
	ビジネス研究科 ビジネス専攻（博士前期課程）	15 (15)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	3 (3)	
	ビジネス研究科 ビジネス専攻（博士後期課程）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
	計	103 (103)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	116 (116)	0 (0)	- (-)	
	合計	109 (109)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	125 (125)	0 (0)	- (-)	
教員以外の職員 の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
			人		人		人		
	事 務 職 員		56 (58)		108 (108)		164 (166)		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
そ の 他 の 職 員		14 (14)		50 (50)		64 (64)			
	計	72 (74)		158 (158)		230 (232)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	愛知淑徳中学校 収容定員840名 基準面積20,204㎡ 愛知淑徳高等学校 収容定員1,050名 基準面積28,986㎡				
	校 舎 敷 地	94,424.3㎡	1,207.0㎡	22,876.1㎡	118,507.4㎡					
	運 動 場 用 地	53,018.2㎡	0.0㎡	13,287.9㎡	66,306.1㎡					
	小 計	147,442.5㎡	1207.0㎡	36,164.0㎡	184,813.5㎡					
	そ の 他	89,236.1㎡	0.0㎡	4,749.0㎡	93,985.1㎡					
合 計	236,678.6㎡	1207.0㎡	40,913.0㎡	278,798.6㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		93,638.0㎡ (93,638.0㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	93,638.0㎡ (93,638.0㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	102室	130室	135室	19室 (補助職員 7人)	13室 (補助職員 7人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻		9 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分 ・ 機械・器具 9,413点 ・ 標本 153点		
	健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻	16,880 [1,018] (16,880 [1,018])	53 [25] (53 [25])	12 [12] (12 [12])	670 (670)	55 (55)	0 (0)			
	計	16,880 [1,018] (16,880 [1,018])	53 [25] (53 [25])	12 [12] (12 [12])	670 (670)	55 (55)	0 (0)			
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		4,863㎡		705	517,472					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		5,608.1㎡		トレーニングルーム 屋内温水プール						
の 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	「教員1人当りの 研究費等」につ いて、研究科単 位での算出不能 なため、学部と の合計。 図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費（運用 コストを含む）を 含む。 申請研究科全体
		教員1人当り研究費等		480千円	480千円	—	—	—	—	
		共同研究費等		1,308千円	1,308千円	—	—	—	—	
		図書購入費	263千円	100千円	100千円	—	—	—	—	
	設備購入費	6,238千円	330千円	330千円	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		850千円	670千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入、雑収入等							
大 学 の 名 称		愛知淑徳大学								
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
文学部		年	人	年次 人	人		倍			
国文学科		4	95	—	380	学士(文学)	1.10	昭和50年度	愛知県長久手市 片平二丁目9	
総合英語学科		4	100	—	400	学士(文学)	0.95	平成30年度		
英文学科		4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和50年度		
教育学科		4	100	—	400	学士(文学)	1.06	平成19年度		
人間情報学部										
人間情報学科		4	200	—	800	学 士 (人間情報)	1.06	平成22年度	愛知県長久手市 片平二丁目9	

既設大学等の状況	心理学部 心理学科	4	180	—	720	学士 (心理学)	1.06	平成22年度	愛知県長久手市 片平二丁目9	
	創造表現学部 創造表現学科	4	295		1,180		1.08	平成22年度		※平成28年度より 創造表現学部創造 表現学科へ名称変 更(メディア・ロボティ クス学科)
	創作表現専攻	4	95	—	380	学士(学術)	1.06	平成28年度	愛知県長久手市 片平二丁目9	
	メディア・ロボティクス専攻	4	130	—	520	学士(学術)	1.10	平成28年度		
	建築・インテリアデザイン専攻	4	70	—	280	学士(学術)	1.09	平成28年度		
	健康医療科学部 医療貢献学科	4	80		320		1.05	1.01	平成22年度	
	言語聴覚学専攻	4	40	—	160	学士 (健康医療科学)	1.03	平成22年度	愛知県長久手市 片平二丁目9	
	視覚科学専攻	4	40	—	160	学士 (健康医療科学)	0.99	平成22年度		
	スポーツ・健康医科学科	4	130	—	520	学士 (健康医療科学)	1.09	平成22年度		
	健康栄養学科	4	80	—	320	学士 (健康医療科学)	1.04	平成29年度		令和6年度より学 生募集停止
	福祉貢献学部 福祉貢献学科	4	120		480		1.05	平成22年度	愛知県長久手市 片平二丁目9	
	社会福祉専攻	4	70	—	280	学士 (福祉貢献)	1.03	平成22年度		
	子ども福祉専攻	4	50	—	200	学士 (福祉貢献)	1.07	平成22年度		
	交流文化学部 交流文化学科	4	280	—	1,120	学士 (交流文化)	1.04	平成22年度	名古屋市千種区 桜が丘23	
ビジネス学部 ビジネス学科	4	230	—	920	学士(ビジネス)	1.07	平成16年度	名古屋市千種区 桜が丘23		
グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	4	60	—	240	学士 (グローバル・ コミュニケーション)	1.08	平成28年度	名古屋市千種区 桜が丘23		

大 学 の 名 称	愛知淑徳大学大学院							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
文化創造研究科						0.20		
文化創造専攻 (博士前期課程)	2	40	—	80	修士 (文学) (図書館情報 学) (学術)	0.17	平成25年度	愛知県長久手市 片平二丁目9
文化創造専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (文学) (図書館情報 学) (学術)	0.33	平成25年度	
教育学研究科						0.05		
発達教育専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (教育学)	0.05	平成22年度	愛知県長久手市 片平二丁目9
心理医療科学研究科						0.25		
心理医療科学専攻 (博士前期課程)	2	50	—	100	修士 (心理学) (社会福祉学) (言語聴覚学) (視覚科学) (健康科学)	0.27	平成25年度	愛知県長久手市 片平二丁目9
心理医療科学専攻 (博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (心理学) (社会福祉学) (言語聴覚学) (視覚科学) (健康科学)	0.22	平成25年度	
グローバルカルチャー・ コミュニケーション研究科						0.03		
グローバルカルチャー・ コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	45	—	90	修士(学術)	0.04	平成20年度	愛知県長久手市 片平二丁目9 名古屋市千種区 桜が丘23
グローバルカルチャー・ コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	3	8	—	24	博士(学術)	0.00	平成20年度	
ビジネス研究科						0.09		
ビジネス専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(学術)	0.07	平成17年度	名古屋市千種区 桜が丘23
ビジネス専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士(学術)	0.13	平成17年度	
附属施設の概要	<p>名 称 : 愛知淑徳大学健康・医療・教育センター (AHSMEC (アースメック)) (Advanced Health Support, Medical Care, and Education Center)</p> <p>センター長 : 小林 三太郎 (愛知淑徳大学 法人本部長)</p> <p>目 的 : 愛知淑徳大学の関係組織が連携し教育・研究・診療および地域貢献をより充実するため</p> <p>所 在 地 : 愛知県長久手市片平二丁目9</p> <p>設置年月 : 平成25年 (2013年) 4月</p> <p>規 模 等 : 土地 5,574.15㎡、建物 4,063.87㎡</p>							

教育課程等の概要

(健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	チーム医療概論	1・2後	2			○			3						兼4 オムニバス・共同(一部)
	栄養ケア・マネジメント概論	1・2後	2			○			2	1					兼1 オムニバス
	在宅ケア・リハビリテーション概論	1・2前		2		○									兼4 オムニバス
	予防医学概論	1・2前		2		○			2	1					オムニバス
	地域栄養学概論	1・2前		2		○				1					兼1 オムニバス
	臨床研究法と医療倫理	1・2後		2		○			1						兼3 オムニバス
	小計(6科目)	—		4	8	0		—	5	3	0	0	0		兼13
専門中心科目	生活習慣病特論	1・2前		2		○			1						隔年
	生活習慣病演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	生活習慣病演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	生活習慣病演習Ⅲ	2前		2			○		1						
	生活習慣病演習Ⅳ	2後		2			○		1						
	地域栄養学特論	1・2後		2		○				1					隔年
	地域栄養学演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	地域栄養学演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	地域栄養学演習Ⅲ	2前		2			○			1					
	地域栄養学演習Ⅳ	2後		2			○			1					
	栄養教育論特論	1・2前		2		○			1						隔年
	栄養教育論演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	栄養教育論演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	栄養教育論演習Ⅲ	2前		2			○		1						
	栄養教育論演習Ⅳ	2後		2			○		1						
	応用栄養学特論	1・2後		2		○				1					隔年
	応用栄養学演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	応用栄養学演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	応用栄養学演習Ⅲ	2前		2			○			1					
	応用栄養学演習Ⅳ	2後		2			○			1					
公衆衛生学特論	1・2後		2		○			1						隔年	
公衆衛生学演習Ⅰ	1前		2			○		1							

専門中心科目における履修上の制約について

卒業要件である専門中心科目を14単位以上修得する（修士論文を指導する教員（以下「指導教員」という。）の専門領域と類似する専門領域の特論2単位を含めた特論6単位以上と指導教員の専門領域と類似する専門領域の演習8単位を履修することを条件とする）うち、指導教員の専門領域と類似する専門領域の特論2単位を除く特論4単位以上を履修する際は、以下の制約を設ける。

指導教員の専門領域と類似する専門領域の特論	履修上の制約を設ける特論（履修する際の制約）	
「生活習慣病特論」を履修する場合	⇒ 「地域栄養学特論」「栄養教育論特論」「公衆衛生学特論」から2単位以上を履修	⇒ 「応用栄養学特論」「臨床栄養学特論」「健康食事学特論」から2単位以上を履修
「地域栄養学特論」又は「栄養教育論特論」を履修する場合	⇒ 「生活習慣病特論」「公衆衛生学特論」「口腔健康科学特論」から2単位以上を履修	⇒ 「応用栄養学特論」「臨床栄養学特論」「健康食事学特論」から2単位以上を履修
「応用栄養学特論」又は「臨床栄養学特論」又は「健康食事学特論」を履修する場合	⇒ 「公衆衛生学特論」を履修	⇒ 「生活習慣病特論」「地域栄養学特論」「栄養教育論特論」から2単位以上を履修
	⇒ 「地域栄養学特論」「栄養教育学特論」から2単位以上を履修	⇒ 「生活習慣病特論」「公衆衛生学特論」「口腔健康科学特論」から2単位以上を履修
「公衆衛生学特論」を履修する場合	⇒ 「応用栄養学特論」「臨床栄養学特論」「健康食事学特論」から2単位以上を履修	⇒ 「生活習慣病特論」「地域栄養学特論」「栄養教育論特論」から2単位以上を履修
「口腔健康科学特論」を履修する場合	⇒ 「地域栄養学特論」「栄養教育学特論」から2単位以上を履修	⇒ 「応用栄養学特論」「臨床栄養学特論」「健康食事学特論」から2単位以上を履修
	⇒ 「公衆衛生学特論」及び「生活習慣病特論」を履修	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	チーム医療概論	<p>超高齢社会を迎え、医療のあり方は多様化・複雑化している。地域住民の健康を回復し、それを維持増進するために栄養学的な介入を効果的・効率的に行う必要がある。そのためには、医療に携わる多職種の専門職者と信頼関係を構築し、連携及び協働しなければならない。多職種連携における自職種と他職種の役割を理解し、連携のためのアサーティブコミュニケーションを駆使し、自らを省察し課題を明らかにし、多職種でそれを解決する過程こそが重要である。具体的には、小講義とグループワークでの実事例の検討を通してこの課程を体験していく。患者・家族の生活者としてのニーズや社会背景を理解した上で、自職種とは異なる他職種の視点を学び問題解決を導くという、多職種連携能力を修得する。他大学の他職種大学院生との合同授業等を企画し、チーム医療を疑似体験する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (一部共同) (1 植村 和正/3回(第1回は阿部と共同)) 第1回では授業のガイダンスを行い、第2回では多職種連携の課題解決の方法を考えるグループワークをファシリテートする。 (13 阿部 恵子/5回(第1回は植村と共同、第13、14回は安井と共同)) 第1回では多職種連携やチーム医療の歴史を概説する。第5、6回は多職種連携の実際を看護師の立場から講義とグループワークで教授する。第13、14回は事例等に基づいた多職種カンファレンスを他大学他職種大学院生と合同授業で行う。 (5 百合草 誠/2回) 多職種連携の実際を歯科医師の立場から講義とグループワークで教授する。 (20 安井 浩樹/2回(第13、14回は阿部と共同)) 第13、14回を阿部と共同で事例等に基づいた多職種カンファレンスを他大学他職種大学院生と合同授業で行う。 (10 山本 博之/2回) 多職種連携の実際を薬剤師の立場から講義とグループワークで教授する。 (14 内山 靖/2回) 多職種連携の実際を理学療法士・作業療法士の立場から講義とグループワークで教授する。 (4 東山 幸恵/2回) 多職種連携の実際を管理栄養士の立場から講義とグループワークで教授する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	栄養ケア・マネジメント概論	<p>医療・介護・福祉領域の実践活動における栄養ケア・マネジメントの実態を理解し、制度上の課題を主体的に捉え検討できる知識を養うことを主眼とする。高齢者および障がい者（児）の福祉施設、医療施設および給食経営管理が必要な施設での事例を通して、課題把握のための評価の考え方と基礎的知識を修得する。必要に応じ、施設訪問およびヒアリングを実施する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （2 榎 裕美／5回） 栄養ケア・マネジメントの概念、背景と制度について、これまでのエビデンスを整理する。高齢者福祉施設における要介護高齢者の栄養ケア・マネジメントの基礎知識について概説し、栄養ケア・マネジメント事例から課題分析と解決のストラテジーを討議する。要介護高齢者の栄養ケア・マネジメントのガイドラインに向けた科学的根拠についても討議を行う。15回目授業は、本科目のまとめである。</p> <p>（4 東山 幸恵／5回） 医療施設の傷病者および福祉施設の障がい児（者）の栄養ケア・マネジメントの基礎知識について概説する。医療施設の傷病者および福祉施設の障がい児（者）の栄養ケア・マネジメント事例から課題分析と解決のストラテジーを討議する。障がい児（者）の栄養ケア・マネジメントのガイドラインに向けた科学的根拠についても討議を行う。</p> <p>（7 持丸 由香／4回） 傷病者および要介護者を対象とした給食施設における栄養ケア・マネジメントの現状について概説し、対象者の特性に応じた給食経営管理と栄養管理の適正化・運営の効率化について、事例から課題分析と解決のストラテジーを討議する。給食経営管理と栄養ケア・マネジメントに関する科学的根拠についても討議を行う。</p> <p>（12 黒川 文子／1回） 社会福祉士の立場から高齢者、障がい者、傷病者を対象とした支援に関する制度等の理解を通して、関連他職種との関係性について学び、医療・介護・福祉領域の実践活動のあり方を教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	在宅ケア・リハビリテーション概論	<p>超高齢社会となった日本では、健康寿命の延伸や高齢者福祉の見直しなどが図られ、社会の在り方は劇的に変容している。また高齢者人口の増加だけでなく、医療の進歩とともに、救命後の社会生活において、高い医療密度を必要とする小児や難病患者も増えており、在宅療養者や要介護者はますます増えている。在宅療養を要するものの多くは栄養の問題を抱えており、栄養ケアの充実が重要だが、加えて在宅療養においては、日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加を促すためにリハビリテーションが推進されており、リハビリテーションの効果を最大にするためにも、適切な栄養ケアが求められる。</p> <p>この科目では、在宅ケアとリハビリテーションの概要を学び、栄養ケアに求められる医療的・社会的ニーズについて思索し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (19 前田 恵子／5回) 在宅医療の現状を概説したのち、医師・看護師とともに患者を訪ねて在宅療養の実際を知り、栄養ケアの観点から慢性疾患や障害を持つ者の療養生活を考察する。 (11 和田 郁雄／5回) リハビリテーションの意義を概説し、通院医療におけるリハビリテーションを見学したのち、PT・STとともに患者を訪ね、高齢者、神経難病患者、重症心身障害児などのリハビリテーションの実際を見学し、栄養の観点から問題点を検討・抽出する。 (21 安田 和代／4回) 在宅栄養ケアについて概説したのち、栄養士とともに患者を訪ね、栄養指導、食支援の実際を体験し、専門的な知識・技術のほか、他職種との連携の必要性と実際についても学ぶ。 (15 中村 了／1回) 包括的な患者評価を含めた病院医療と在宅医療の連携について概説し、特に栄養の観点から連続したケアの重要性について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	予防医学概論	<p>高齢化社会のなかで、健康増進と疾病対策を実践していくために必要な知識と視座を修得する。本講義では、環境、口腔、ライフステージ、身体活動をキーワードとして、それぞれの視点から疾病予防のあり方と実践方法について学ぶことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (3 武山 英麿／6回) 初回は、本講義の概要と目標および受講に当たっての諸注意等のガイダンスを行う。第2回から5回にかけて、疾病予防と健康増進の進め方、保健統計と疫学研究および疾病要因、国際的な健康問題などについて講義・討論により理解を深める。 最終回は、総合討論を通して総括とする。 (5 百合草 誠／5回) 生活習慣病予防やフレイルなどの高齢者特有の健康問題について歯科保健の視点から理解を深め、他職種連携に必要な専門的知識と実践方法を修得する。 (8 小久保 友貴／4回) 疾病予防における栄養の意義とライフステージ別および身体活動時の栄養のあり方について理解を深め、地域、職域等での栄養管理を実践するための専門的知識と実践方法を修得する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	地域栄養学概論	<p>現在の社会においては、価値観の多様化や、健康格差の存在が認識されるようになってきた。この状況下での健康課題を食を通して解決できるようになるために、本科目では、栄養疫学的な考え方を軸とし、地域に住む様々な人々の状況をミクロ及びマクロの両面より捉えアプローチできるための考え方や方法（行動経済学やコミュニティ・オーガニゼーション等）を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (6 岩崎 祐子／12回)</p> <p>第1回では授業のガイダンスを行い、地域の概念を教授する。第2～5回では、国民健康栄養調査を始め、実際の食事調査の方法やエビデンスとして研究をデザインする具体的な方法や考え方について教授する。第6回では、国民健康栄養調査等より把握されている食の格差を中心に健康と社会格差について教授する。第7回、第8回では、人の行動の特徴や影響を与える要因を消費者行動論や行動経済学の視点より講義し、健康分野への応用を考える機会とする。第9～10回では、地域の実態に合わせ、行動科学の様々な理論に基づき、地域社会の仕組みがどのように構築されていくか、その考え方のモデルを基に多面的に捉えるための講義とディスカッションを行う。第14回では、行政や病院の経験者をゲストスピーカーに招致して、地域の専門職人材の活用や、診療所等医療機関との連携の取り方や仕組みづくりなど自ら考えられるようファシリテートする。</p> <p>(16 東野 定律／3回)</p> <p>第11回では、地域包括システムや地域づくりを学び、第12回・13回では事例検討をとおして、そのマネジメント方法について考えられるようファシリテートする。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	臨床研究法と医療倫理	<p>医療・介護・福祉領域における研究、いわゆる臨床研究の方法には、他の自然科学領域で一般的に用いられている仮説検証法は有力な方法である。一方、研究対象個々が置かれた環境や事情が様々であるために、研究者の求める真理が研究者が対象に向ける視点や対象が有する社会的背景に依存していると考え、数量的なデータに依存せず、言語的・概念的な性格を持つ質的なデータを尊重しながら研究を進める質的研究法も極めて有力な方法である。この領域は心理社会的な側面からのアプローチが真理の探究に必須であるという点からも質的研究法の有用性は高い。</p> <p>研究を進めるに際しては、研究倫理に則って進めるべきであるのは論を待たない。特に、医療・介護・福祉領域における倫理、いわゆる医療倫理の順守は研究対象者の人権を守るだけでなく、身体的・心理的な危険性を可能な限り排除するためにも最低限身につけておかなければならず、それらについて学修する。</p> <p>この科目では、内容分析とSCAT (Steps for Coding and Theorization) を中心に質的研究法について学び、実際の研究において活用できる能力を身につける。加えて、臨床研究において順守すべき医療倫理についてその思想的背景を含めて修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (1 植村 和正／3回) 最初の授業で質的研究法の概要を量的研究法との対比において概説する、この科目のガイダンスを兼ねる。第14回目の授業では、医療におけるプロフェッショナリズムを倫理的な観点から討議する。第15回授業は本科目のまとめである。 (18 平川 仁尚／4回) 質的研究法の一つである内容分析法を概説し、事例を用いて実際に分析を実践する。平川担当最後の授業で発表、討議、まとめを行う。 (17 肥田 武／4回) 質的研究法の一つであるSCATを概説し、事例を用いて実際に分析を実践する。肥田担当最後の授業で発表、討議、まとめを行う。 (9 加藤 憲／4回) 医療倫理の歴史を紐解き、その原則の依って立つ根拠を理解する。その上で、研究倫理に関する法的知識を修得し、現実倫理審査のあり方を理解する。医療現場での倫理原則の適用の具体例として終末期医療及びケアの実例を検討する。</p>	オムニバス方式
専門中心科目	生活習慣病特論	<p>超高齢社会の我が国において、国民の健康寿命を延伸し高いQOLを維持するためには、糖尿病・高血圧症・脂質異常症などの生活習慣病とそれに合併する虚血性心疾患や脳血管疾患に対する予防や治療介入が極めて重要である。生活習慣病に対する食事・運動・休養・喫煙や飲酒などの嗜好の果たす役割を医学的かつ社会的に理解し、個々の状況に応じた介入計画を立案し実践する能力を修得する。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 中心 科目	生活習慣病演習Ⅰ	生活習慣病（糖尿病）の患者は定期的に医療機関を受診しながら内服治療等を継続している。医療機関の外来では、個々の患者に応じた生活指導が日常的に実施されている。愛知淑徳大学クリニック内科・糖尿病外来診療に立ち合い、具体的な生活指導の様子を見学する。クリニックでは最新の治療や新しい知見に基づいた治療介入を行っているが、その背景となる医学的根拠を自ら検索してまとめ指導教員に提示する。	
	生活習慣病演習Ⅱ	生活習慣病（高血圧症及び脂質異常症）の患者は定期的に医療機関を受診しながら内服治療等を継続している。医療機関の外来では、個々の患者に応じた生活指導が日常的に実施されている。愛知淑徳大学クリニック内科・糖尿病外来診療に立ち合い、具体的な生活指導の様子を見学する。クリニックでは最新の治療や新しい知見に基づいた治療介入を行っているが、その背景となる医学的根拠を自ら検索してまとめ指導教員に提示する。	
	生活習慣病演習Ⅲ	生活習慣病（心疾患及び脳卒中）の患者は定期的に医療機関を受診しながら内服治療等を継続している。医療機関の外来では、個々の患者に応じた生活指導が日常的に実施されている。愛知淑徳大学クリニック内科・糖尿病外来診療に立ち合い、具体的な生活指導の様子を見学する。クリニックでは最新の治療や新しい知見に基づいた治療介入を行っているが、その背景となる医学的根拠を自ら検索してまとめ指導教員に提示する。	
	生活習慣病演習Ⅳ	生活習慣病（慢性腎臓病及びがん）の患者は定期的に医療機関を受診しながら内服治療等を継続している。医療機関の外来では、個々の患者に応じた生活指導が日常的に実施されている。愛知淑徳大学クリニック内科・糖尿病外来診療に立ち合い、具体的な生活指導の様子を見学する。クリニックでは最新の治療や新しい知見に基づいた治療介入を行っているが、その背景となる医学的根拠を自ら検索してまとめ指導教員に提示する。	
	地域栄養学特論	健康や食をとりまく様々な現象を俯瞰できるようになるために、国民健康栄養調査等の様々な栄養状況及び食生活状況調査等の状況を把握・評価を行い、日本の食生活の実態を客観的に理解する。更には、国レベル、都道府県レベル、市町村レベル、地域包括ケアシステム単位のレベルにおける住民に対する食のサポートシステムを、行政レベルから民間や住民協働レベルまで、その事例を通して、多様なシステムや法的制度を理解する。	隔年
	地域栄養学演習Ⅰ	栄養素等及び食品群レベルの食事状況調査の結果分析を、自ら仮説を設定し実施することで、集団データの取扱いの工夫点や特性を理解する。このことを理解したうえで、集団の食生活を捉えるための質問紙設計及び調査分析を一貫して行い、その技術や考え方を学ぶ。	
	地域栄養学演習Ⅱ	地域の健康支援システムとして機能する都道府県及び市町村の健康増進計画、食育推進地方計画について、実際1つの自治体を選定し調べ、また具体的な事業や地域資源に関しフィールドワークも行い、総合的に地域のシステムを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 中心 科目	地域栄養学演習Ⅲ	ソーシャル・マーケティングについて、内容を理解し、実際のフィールドでの展開方法を討議し、アプローチ方法やシステム構築について理解を深める。	
	地域栄養学演習Ⅳ	コミュニティに対するアプローチに関するテキストや事例を通して、内容を理解し、実際の地域でのアプローチ方法やシステム構築について理解できるよう、主に発表やディスカッションを用いた演習を行う。	
	栄養教育論特論	超高齢社会の我が国において、国民の健康寿命を延伸し高いQOLを維持するためには、生活習慣病の発症予防および重症化予防、さらには高齢者の低栄養予防やフレイル予防も視野に入れた施策が行われている。成人期から高齢期では、食の指導にとどまらず、運動や休養の習慣、生活リズム、食環境なども含めた効果的な栄養教育を実施することが極めて重要である。成人期および高齢期の栄養管理についての課題及び問題解決のための知識を理解し、個々の状況に応じた適切な栄養管理計画を立案し実践する能力を修得する。	隔年
	栄養教育論演習Ⅰ	成人期の栄養管理に関する国内外の文献を講読し、プレゼンテーションとディスカッションにより、現在までに明らかになっている科学的知見を理解し、研究計画から学術論文の構成や執筆方法を修得する。	
	栄養教育論演習Ⅱ	高齢期の栄養管理に関する国内外の文献を講読し、プレゼンテーションとディスカッションにより、現在までに明らかになっている科学的知見を理解し、研究計画から学術論文の構成や執筆方法を修得する。	
	栄養教育論演習Ⅲ	演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、系統的レビュー（質的）の手順を理解し、同質の研究をまとめバイアスを評価し、クリニカルクエスチョンへの回答と要約および構造化抄録の作成により、研究の質を評価するスキルを修得する。	
	栄養教育論演習Ⅳ	演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえ、系統的レビュー（質的）の手順を理解し、同質の研究をまとめバイアスを評価し、クリニカルクエスチョンへの回答と要約および構造化抄録を作成する。さらに系統的レビューのレポート作成により、研究の質を評価するスキルを修得する。	
	応用栄養学特論	妊娠期から高齢期までの各ライフステージの生理学・栄養学的特徴を理解し、栄養管理の基本的な考え方を修得する。適切な栄養管理を実施するために日本人の食事摂取基準の考え方を理解し、活用方法を修得する。ライフステージ別だけでなく、運動時やストレス環境、災害時における栄養の機能を理解し、健康への影響に関わるリスク管理の基本的な考え方を修得する。	隔年
	応用栄養学演習Ⅰ	対象者の栄養管理に重要な栄養アセスメント項目（身体計測、生化学検査、身体活動量、食事調査）における栄養状態の評価方法について近年の論文を抄読し、まとめることで各栄養アセスメント項目における理解を深める。	
	応用栄養学演習Ⅱ	対象者の栄養管理に重要な栄養アセスメント項目（身体計測、生化学検査、身体活動、食事調査）の測定または調査法を理解し、実際の測定法や調査方法の手技を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 中心 科目	応用栄養学演習Ⅲ	各ライフステージおよび食環境別の栄養管理に関する最近の論文を抄読し、栄養管理のプロセスや栄養管理に影響する要因を理解し、研究を組み立てる方法を修得する。	
	応用栄養学演習Ⅳ	各ライフステージまたは運動習慣を有する対象者の栄養アセスメントデータを用いて、データの解析から栄養評価までを理解する。実際のデータからデータを整理し、栄養評価に影響する要因を考慮し、栄養状態の問題点を理解する。栄養評価を実施するための論理的思考を修得する。	
	公衆衛生学特論	公衆衛生学特論は、人々の健康増進と疾病予防に関わる様々な課題について、社会や環境との関わりに着目しながら考察し解決していくために必要な知識を修得すること目的としている。	隔年
	公衆衛生学演習Ⅰ	公衆衛生活動に関する最新の文献または研究課題テーマに関連した研究論文の検索と講読を行い、発表と質疑応答を行うことで文献読解力とプレゼンテーション能力を修得する。	
	公衆衛生学演習Ⅱ	生活環境と健康に関する最新の文献または研究課題テーマに関連した研究論文の検索と講読を行い、発表と質疑応答を行うことで文献読解力とプレゼンテーション能力を修得する。	
	公衆衛生学演習Ⅲ	労働環境と健康に関する最新の文献または研究課題テーマに関連した研究論文の検索と講読を行い、発表と質疑応答を行うことで文献読解力とプレゼンテーション能力を修得する。	
	公衆衛生学演習Ⅳ	研究課題テーマに関連した研究論文の検索と講読を行い、発表と質疑応答を行うことで文献読解力とプレゼンテーション能力を修得する。	
	臨床栄養学特論	多くの疾患の原因や進行には栄養が深く関与している。特に糖尿病、脂質異常症などの代謝性疾患や循環器系疾患、腎疾患、消化管疾患等の治療には積極的な栄養管理が不可欠で、適切な栄養評価に基づく栄養介入が重要である。本講義では、臨床において特に栄養管理が重要となる疾患に対する実践的な栄養管理方法を理解し、対象者の生活背景を含め包括的な栄養管理計画を立案できる能力を修得する。	隔年
	臨床栄養学演習Ⅰ	肥満症、糖尿病は食事療法が奏功する代表的な疾患である。本演習では、愛知淑徳大学クリニックに通院し栄養食事指導を受ける患者、もしくは授業者が提示する症例に対し、栄養評価を行い、栄養管理計画を立案する。また食事療法に関するエビデンス・サーチ、論文精読を行い、根拠に基づく幅広い知識を修得する。	
	臨床栄養学演習Ⅱ	循環器系疾患ならびに腎疾患は食事療法が重要となる疾患である。本演習では授業者が提示する症例に対し、栄養評価を行い、栄養管理計画を立案する。また食事療法に関するエビデンス・サーチ、論文精読を行い、根拠に基づく幅広い知識を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 中心 科目	臨床栄養学演習Ⅲ	低栄養による痩せや鉄欠乏性貧血は、幅広い年代にわたり栄養介入が必要となる疾患である。本演習では愛知淑徳大学クリニックに通院し栄養食事指導を受ける患者もしくは授業者が提示する症例に対し、栄養評価を行い、栄養管理計画を立案する。また食事療法に関するエビデンス・サーチ、論文精読を行い、根拠に基づく幅広い知識を修得する。	
	臨床栄養学演習Ⅳ	小児領域における栄養ケアは症例数は限られるものの、その後の児の成育に大きな影響を及ぼす。本演習では授業者が提示する症例に対し、栄養評価を行い、栄養管理計画を立案する。また食事療法に関するエビデンス・サーチ、論文精読を行い、根拠に基づく幅広い知識を修得する。	
	健康食事学特論	<p>国民の健康寿命を延伸し高いQOLを維持するためには、生活習慣病とそれに合併する疾患の予防や治療が極めて重要であり、生活習慣病の予防や治療において食事の担う役割は大きい。食事の役割を生理的かつ社会的に理解し、それに役立つ食品や調理科学に関する知識を深め、対象者に応じた介入計画（調理教育）を立案する能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (2 榎 裕美／2回) 健康を保持・増進するためには、中高年では生活習慣病の発症予防・重症化予防、高齢者ではフレイル予防・低栄養予防が課題となる。国民健康・栄養調査等の実態と疾患の各種ガイドラインおよび最新のエビデンスを探索し、望ましい食事としてのエネルギーおよび栄養素摂取についての討議を行う。 (4 東山 幸恵／5回) 生活習慣病の発症と重症化を防ぐために食品機能が果たす役割について論文精読を通じて理解し、より深い知識を修得する。またこれらの知識に基づき成長期に必要な栄養ならびに食習慣形成と健康状態の関連性を考察する。さらに各ライフステージにおける健康課題に対処すべく、調理教育を含む改善プログラムの立案能力の修得と向上を図る。 (7 持丸 由香／5回) 健康を保持・増進するための食事計画を行うためには、食品や調理科学に関する知識を深めることも重要である。対象者のライフステージや病態に適したエネルギーおよび栄養素の摂取を効果的に行うことができるよう、また生活習慣や嗜好にも配慮した満足度の高い食事を実現できるよう、食品の特性や調理過程における様々な変化について討議を行う。 (8 小久保 友貴／3回) 健康を保持・増進するためには運動と食事（栄養）のバランスが大切である。健康づくりのために運動している成人や高齢者、および、競技力向上のために運動をしているアスリートを対象に食品や調理法の考察とレシピ開発を行う。運動やアスリートの食事に関する国内外のエビデンスを探索し、対象者に最適な食事について理解を深める。</p>	オムニバス方式 隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 中心 科目	健康食事学演習Ⅰ	エネルギー制限が必要な対象者の食生活の問題点を明らかにし、対象者に適した食事設計を提案する。食事設計遂行のための調理教育プログラムを作成・実施・評価する。	
	健康食事学演習Ⅱ	塩分制限が必要な対象者の食生活の問題点を明らかにし、対象者に適した食事設計を提案する。食事設計遂行のための調理教育プログラムを作成・実施・評価する。	
	健康食事学演習Ⅲ	たんぱく質制限が必要な対象者の食生活の問題点を明らかにし、対象者に適した食事設計を提案する。食事設計遂行のための調理教育プログラムを作成・実施・評価する。	
	健康食事学演習Ⅳ	アレルギー、ヴィーガン、ハラルの対応が必要な対象者の食生活の問題点を明らかにし、Plant Based Food等の新素材についての理解を深め、それらを用いた食事設計を提案する。 食事設計遂行のための調理教育プログラムを作成・実施・評価する。	
	口腔健康科学特論	口腔の構造、機能、疾患及びその治療法について学修する。また、ライフステージごとの口腔内環境に着目した口腔ケアの基本を学修し、口腔機能と栄養摂取および運動機能との関連について学修する。さらに、口腔保健に関する政策やかかりつけ歯科医の役割について学修する。	隔年
	口腔健康科学演習Ⅰ	最近の学術論文を抄読することにより、口腔機能の測定方法や評価方法を理解し、研究を組み立てる方法を修得し、口腔機能と食とのかかわりについて理解を深める。	
	口腔健康科学演習Ⅱ	最近の学術論文を抄読することにより、口腔内の健康にかかわる生活習慣（喫煙・栄養摂取・フッ化物の利用など）について理解し、研究を組み立てる方法を修得し、口の健康と全身の健康について理解を深める。	
	口腔健康科学演習Ⅲ	最近の学術論文を抄読することにより、高齢者の口腔機能について理解し、研究を組み立てる方法を修得し、オーラルフレイルおよび口腔機能低下症について理解を深める。	
	口腔健康科学演習Ⅳ	特別養護老人ホームやかかりつけ歯科医院において、口腔ケアを実施することで、口腔機能の維持、改善だけでなく、肺炎の予防にも繋がるとして口腔ケアの取り組みが評価されている。歯科医師および歯科衛生士が行う口腔ケアを見学し、口腔内の状態と栄養摂取状況についてまとめる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	栄養科学特別研究 I	<p>修士論文を執筆することが最終目的であるが、研究テーマの選定、研究テーマに関する先行研究や周辺領域の文献検索、研究方法の策定、研究計画の作成、研究の実施、研究結果の解析と解釈、及び修士論文の作成の全ての過程を個々の大学院生の指導教員が担当する。学生の能力や資質、入学前の準備状態、研究テーマ等に応じて進捗は異なるが、栄養科学特別研究 I では、研究テーマの選定及び研究方法の検討を行う。</p> <p>(1 植村 和正) 糖尿病を中心とした生活習慣病領域および高齢者医療等の地域医療の領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の文献等の検索に関して指導を行う。</p> <p>(① 安藤 富士子) 老化と老年病に係わる身体組成要因の縦断研究の領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の研究等の検索に関して指導を行う。</p> <p>(2 榎 裕美) 一般高齢者および要介護高齢者（在宅・施設）を対象とした高齢者の栄養ケアの領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の研究等の検索に関して指導を行う。</p> <p>(3 武山 英麿) 食生活環境における健康リスク要因による疾病の予防に関する領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の研究等の検索に関して指導を行う。</p> <p>(4 東山 幸恵) 栄養状態の改善やQOLの向上に介入する臨床栄養学の領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の研究等の検索に関して指導を行う。</p> <p>(5 百合草 誠) 口腔機能を中心とした顎口腔領域の健康およびオーラルフレイルと全身の健康と関連する領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の研究等の検索に関して指導を行う。</p> <p>(6 岩崎 祐子) 食や健康を通じた地域づくり、地域政策に関する領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の文献等の検索に関して指導補助を行う。</p> <p>(7 持丸 由香) 生活習慣病の予防や治療に資する効果的なエネルギーおよび栄養素の摂取のための食品や調理科学の領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の研究等の検索に関して指導を行う。</p> <p>(8 小久保 友貴) 成長期以降のライフステージにおける健康増進や競技力向上を目的としたスポーツ栄養学の領域で、修士論文の研究テーマを選定し適切な研究方法を選択するために、先行研究や周辺領域の研究等の検索に関して指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	栄養科学特別研究Ⅱ	<p>栄養科学特別研究Ⅰに引き続き、修士論文を執筆することが最終目的である。研究テーマの選定、研究テーマに関する先行研究や周辺領域の文献検索、研究方法の策定、研究計画の作成、研究の実施、研究結果の解析と解釈、及び修士論文の作成の全ての過程を個々の大学院生の指導教員が担当する。栄養科学特別研究Ⅱでは、研究計画の作成と研究（調査や実験）を実施する。</p> <p>(1 植村 和正) 糖尿病を中心とした生活習慣病領域および高齢者医療等の地域医療の領域で、修士論文作成のため研究を実施するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導を行う。</p> <p>(① 安藤 富士子) 老化と老年病に係わる身体組成要因の縦断研究の領域で、修士論文作成のため研究を実践するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導を行う。</p> <p>(2 榎 裕美) 一般高齢者および要介護高齢者（在宅・施設）を対象とした高齢者の栄養ケアの領域で、修士論文作成のため研究を実践するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導を行う。</p> <p>(3 武山 英麿) 食生活環境における健康リスク要因による疾病の予防に関する領域で、修士論文作成のため研究を実践するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導を行う。</p> <p>(4 東山 幸恵) 栄養状態の改善やQOLの向上に介入する臨床栄養学の領域で、修士論文作成のため研究を実践するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導を行う。</p> <p>(5 百合草 誠) 口腔機能を中心とした顎口腔領域の健康およびオーラルフレイルと全身の健康と関連する領域で、修士論文作成のため研究を実践するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導を行う。</p> <p>(6 岩崎 祐子) 食や健康を通じた地域づくり、地域政策に関する領域で、修士論文作成のため研究を実践するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導補助を行う。</p> <p>(7 持丸 由香) 生活習慣病の予防や治療に資する効果的なエネルギーおよび栄養素の摂取のための食品や調理科学の領域で、修士論文作成のため研究を実践するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導を行う。</p> <p>(8 小久保 友貴) 成長期以降のライフステージにおける健康増進や競技力向上を目的としたスポーツ栄養学の領域で、修士論文作成のため研究を実践するために、研究の実施と研究結果の解析や解釈に関して指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科目	栄養科学特別研究Ⅲ	<p>栄養科学特別研究Ⅰ及びⅡに引き続き、修士論文を執筆することが最終目的である。研究テーマの選定、研究テーマに関する先行研究や周辺領域の文献検索、研究方法の策定、研究計画の作成、研究の実施、研究結果の解析と解釈、及び修士論文の作成の全ての過程を個々の大学院生の指導教員が担当する。栄養科学特別研究Ⅲでは、研究結果の解析に基づき論文の執筆に取り組む。</p> <p>(1 植村 和正) 糖尿病を中心とした生活習慣病領域および高齢者医療等の地域医療の領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導を行う。</p> <p>(① 安藤 富士子) 老化と老年病に係わる身体組成要因の縦断研究の領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導を行う。</p> <p>(2 榎 裕美) 一般高齢者および要介護高齢者（在宅・施設）を対象とした高齢者の栄養ケアの領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導を行う。</p> <p>(3 武山 英麿) 食生活環境における健康リスク要因による疾病の予防に関する領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導を行う。</p> <p>(4 東山 幸恵) 栄養状態の改善やQOLの向上に介入する臨床栄養学の領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導を行う。</p> <p>(5 百合草 誠) 口腔機能を中心とした顎口腔領域の健康およびオーラルフレイルと全身の健康と関連する領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導を行う。</p> <p>(6 岩崎 祐子) 食や健康を通じた地域づくり、地域政策に関する領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導補助を行う。</p> <p>(7 持丸 由香) 生活習慣病の予防や治療に資する効果的なエネルギーおよび栄養素の摂取のための食品や調理科学の領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導を行う。</p> <p>(8 小久保 友貴) 成長期以降のライフステージにおける健康増進や競技力向上を目的としたスポーツ栄養学の領域で、修士論文作成のため研究結果の解析や解釈を実践し、修士論文の構想立案と論文執筆に関して指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科目	栄養科学特別研究Ⅳ	<p>栄養科学特別研究Ⅰ、Ⅱ及びⅢに引き続き、修士論文を執筆することが最終目的である。栄養科学特別研究Ⅳでは、修士論文発表会のための準備を進める。修士論文発表会では種々の質問や指摘に適切に対応する。</p> <p>(1 植村 和正) 糖尿病を中心とした生活習慣病領域および高齢者医療等の地域医療の領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導を行う。</p> <p>(① 安藤 富士子) 老化と老年病に係わる身体組成要因の縦断研究の領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導を行う。</p> <p>(2 榎 裕美) 一般高齢者および要介護高齢者（在宅・施設）を対象とした高齢者の栄養ケアの領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導を行う。</p> <p>(3 武山 英麿) 食生活環境における健康リスク要因による疾病の予防に関する領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導を行う。</p> <p>(4 東山 幸恵) 栄養状態の改善やQOLの向上に介入する臨床栄養学の領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導を行う。</p> <p>(5 百合草 誠) 口腔機能を中心とした顎口腔領域の健康およびオーラルフレイルと全身の健康と関連する領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導を行う。</p> <p>(6 岩崎 祐子) 食や健康を通じた地域づくり、地域政策に関する領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導補助を行う。</p> <p>(7 持丸 由香) 生活習慣病の予防や治療に資する効果的なエネルギーおよび栄養素の摂取のための食品や調理科学の領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導を行う。</p> <p>(8 小久保 友貴) 成長期以降のライフステージにおける健康増進や競技力向上を目的としたスポーツ栄養学の領域で、修士論文の執筆および修士論文発表会の準備に関して指導を行う。</p>	

学校法人愛知淑徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
愛知淑徳大学				愛知淑徳大学				
文学部				文学部				
国文学科	95	-	380	国文学科	95	-	380	
総合英語学科	100	-	400	総合英語学科	100	-	400	
教育学科	100	-	400	教育学科	100	-	400	
人間情報学部				人間情報学部				
人間情報学科	200	-	800	人間情報学科	200	-	800	
心理学部				心理学部				
心理学科	180	-	720	心理学科	180	-	720	
創造表現学部				創造表現学部				
創造表現学科				創造表現学科				
創作表現専攻	95	-	380	創作表現専攻	95	-	380	
メディアプロデュース専攻	130	-	520	メディアプロデュース専攻	130	-	520	
建築・インテリアデザイン専攻	70	-	280	建築・インテリアデザイン専攻	70	-	280	
健康医療科学部				健康医療科学部				
医療貢献学科				医療貢献学科				
言語聴覚学専攻	40	-	160	言語聴覚学専攻	40	-	160	
視覚科学専攻	40	-	160	視覚科学専攻	40	-	160	
				理学療法学専攻	40	-	160	学則変更(届出)
				臨床検査学専攻	40	-	160	学則変更(届出)
スポーツ・健康医科学科	130	-	520	スポーツ・健康医科学科	130	-	520	
健康栄養学科	80	-	320	健康栄養学科	0	-	0	令和6年4月学生募集停止 学部の設置(届出)
				食健康科学部				
				健康栄養学科	80	-	320	
				食創造科学科	120	-	480	
福祉貢献学部				福祉貢献学部				
福祉貢献学科				福祉貢献学科				
社会福祉専攻	70	-	280	社会福祉専攻	70	-	280	
子ども福祉専攻	50	-	200	子ども福祉専攻	50	-	200	
交流文化学部				交流文化学部				
交流文化学科	280	-	1,120	交流文化学科	280	-	1,120	
ビジネス学部				ビジネス学部				
ビジネス学科	230	-	920	ビジネス学科	230	-	920	
グローバル・コミュニケーション学部				グローバル・コミュニケーション学部				
グローバル・コミュニケーション学科	60	-	240	グローバル・コミュニケーション学科	60	-	240	
合計	1,950	-	7,800	合計	2,150	-	8,600	

学校法人愛知淑徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
愛知淑徳大学大学院			
文化創造研究科			
文化創造専攻(博士前期課程)	40	-	80
文化創造専攻(博士後期課程)	6	-	18
教育学研究科			
発達教育専攻(修士課程)	10	-	20
心理医療科学研究科			
心理医療科学専攻(博士前期課程)	50	-	100
心理医療科学専攻(博士後期課程)	9	-	27
グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科			
グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	45	-	90
グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	8	-	24
ビジネス研究科			
ビジネス専攻(博士前期課程)	20	-	40
ビジネス専攻(博士後期課程)	5	-	15
合 計	193	-	414

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
愛知淑徳大学大学院				
文化創造研究科				
文化創造専攻(博士前期課程)	40	-	80	
文化創造専攻(博士後期課程)	6	-	18	
教育学研究科				
発達教育専攻(修士課程)	10	-	20	
心理医療科学研究科				
心理医療科学専攻(博士前期課程)	50	-	100	
心理医療科学専攻(博士後期課程)	9	-	27	
健康栄養科学研究科				研究科の設置(認可申請)
健康栄養科学専攻(修士課程)	<u>6</u>	-	<u>12</u>	
グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科				
グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	45	-	90	
グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	8	-	24	
ビジネス研究科				
ビジネス専攻(博士前期課程)	20	-	40	
ビジネス専攻(博士後期課程)	5	-	15	
合 計	199	-	426	